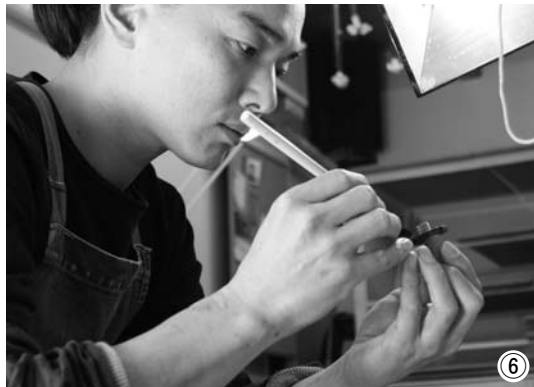




⑨



⑥



⑤



⑧



⑦

# 「おもい」を

## 「おもい」をかたちに

何かを作るとき、形にしようとしたとき、そこには作り手の「おもい」があります。

その「おもい」は、さまざまな技術や技法を使って表現されます。技は受け継がれ、そして新しく創り出されるものでもあります。技によって形づくられた「おもい」を感じ受け取ること、豊かな心が広がり、また新たな「おもい」が生まれるでしょう。

それは作品を作るときだけに限りません。農作物を作るときには、大きくなるようにたくさんでしるようと願って耕されるのでしょうか。料理を作るときには、食べる人のことを考えて調理や味付けがされるのでしょうか。公園の砂場に作られた小さな山も、地域をつなぐ道路や橋も、作る人の「おもい」がなければ、そこには存在しないのではないでしょうか。

いま、南丹市の魅力の一つ、〝ものづくり〟を、地域に根付く宝物として大切に守り育てていく取り組みを進めています。1月31日・2月1日に「南丹工芸文化祭」を開催しました。地域にきらめく〝ものづくり文化〟を市全体で高めていきたいと思います。



⑩

- ① 地域伝承の技法を知る (トチ餅<sup>もち</sup>づくり体験)
- ② 何よりも使いやすさを求めて (陶芸家)
- ③ 64本のボビンが織り成す「くみいと」の機械
- ④ 竹のしなやかさ、繊細な美しさを編む (竹工家)
- ⑤ 素材を生かし、生活になじむものを (染織家)
- ⑥ 真っすぐな視線の先に伝統の技あり (陶芸家)
- ⑦⑧ 自然を愛し、やまない探求心 (木工家)
- ⑨ その手、その背中に宿る趣 (陶芸家)
- ⑩ 小さな手に秘める無限の可能性 (工芸体験)